

日本の野鳥シリーズ

スズメも長命

技術営業部 佐藤 弘

ウトウという海鳥研究者、宮城県の竹丸氏が、巢内ビナに足環を着けた個体を33年後に捕獲したと発表したのは、06年だった。イカナゴやイワシを食ってこれだけ生きるなら、バランス良く食品を摂る人間サマはもっと長生きできる筈、とは私の短絡思考。生き物の寿命が食べ物だけで決まる訳がない。それにしても、アルミ合金の足環が腐食や摩耗によく耐えたものだ。

英国製の足環は山階鳥研から支給される。鳥が国外でも回収されることを考慮して、刻印はKankyosho Tokyo Japan 更にスズメに着ける3番リング(内径2.8mm 重さ0.07g)なら、3A 00001などと印されている。それが99999 迄行くと次は3B 3C さらには3AA 3AB となり、アルファベットが一巡する頃には、同一番号を先に着けた個体はこの世に居ない仕組みになっている。また再捕獲せずに識別できるように、複数の色リングを脚に嵌めたり、行動に支障ない極小の色つきの旗を脚に着けることも、主にカモメやシギを対象に国内外で普及しているようだ。

小社の植込みの松はスズメには絶好の集会場らしく、40羽ほどが群れで訪れる。屋上で全身をさらすより安心とみえる。彼らは日当たりがよい花壇一角の、ほぼ80cm四方を熱砂を浴びる砂風呂にして、数理能力を持つかのように等間隔に16個(4x4)の小さな窪みを作った。しかし砂場が狭くて各自マイお風呂とはいかず、行列ができる砂風呂になったようだ。律儀にも風呂賃代わりに害虫を退治し、につつきイラガとマツケムシを根絶してくれた。「大儀である、存分に砂浴びするがよい、つづらの一つも褒美につかわそうぞ」と格好つけてみたい思いだ。

私が参加する調査地のスズメの長寿記録は満8歳だ。厳しい気候に餌不足、昼はタカ夜はフクロウに狙われる危機を切り抜けた強運の持ち主に違いない。なぜか足指や^{くちばし}嘴のつけ根など、羽毛に覆われていない部位に小さなコブがあった。ウィルス性のものらしいが、3週間後に再捕獲したら自然に治癒していたとの報告例もあるので、心配はいらないらしい。

鳥類の内、一番進化したスズメ目のカラス科で思い当たるように、鳥は年を経るにつれ学習を重ねずい分賢くなるという。体が小さいぶん脳は小さいが、体重との重量比ではイヌを軽く超えるからかなり高い知能を持つ、という説がある。

標識調査により得られた鳥類の長寿記録は、先に紹介した鳥研の著書「鳥の雑学事典」(日本実業出版社)に詳しい。



お安否様
元気通信
むけ

寒中お見舞い申し上げます。

皆様にとって昨年ほどのような年でしたでしょうか？遅くなりましたが本年も元気通信を宜しくお願い申し上げます。

早いもので私が社長職に就いて一〇年が経過しました。過ぎてみるとあつという間のような気もします。その間何をしましたか？はたしてどのくらい成長したのかな？？もう「まだまだ未熟者でござい」は通用しない。そう思うと焦りを感じるこの頃です。そのようなところに、取引先の銀行の支店長さんが来社の折に遠慮がちに「あの、社長が引き継がれてこれからまだまだ第一線でやっついていかれるわけですが、その、銀行として会社を存続させていくお手伝いをしていくという中で、後継者問題についてどんな考えをお持ちなのか皆様にお聞きしているのですが、このことについては何か考えをお持ちですか？」という問いかけがありました。まあそろそろそんなことを聞かれるだろうなと思っていたら、そろそろきたぞ！

会社を運営していく中で、無借金経営をされているところは別ですが、どうしたってやらなければならぬのが「銀行借入れ」で、中小企業ではその時に大概が社長の個人保証がついて回ります(社長の個人保証なしで借入れを実現された企業さんも存じてはいますが、身内を継がせるにしても、社内で適任者がいたとしても、継がせるにはそれがなかなか大きな課題なのでは無いと思いません。というわけで、支店長さんにはそのことも交えて話をしたわけですが、個人保証を外すための条件、これがまたなかなかハードルが高いのです。何とかして後継者の負担が軽くなるよう努力を重ねていくしかないわけですが、日本の中小企業を活性化させていく方針があるのなら、もうちょっと条件緩和してくれ！と思うこの頃です。新年早々からちよつと夢のない話をしてしまいました(汗)ともあれ、お客様の役に立つ会社としてもっと幅広い知識・技術、そして知恵と人間力が求められることは確か。どれも当たり前のことですが、一朝一夕で身につくものではありません。以前、朝の連続テレビドラマの中でヒロインが「地道に、コツコツ」と言っていました。その言葉通り積み重ねていく所存でございます。本年も宜しくお付き合いのほどをお願い申し上げます。(二点、いつもなら年初にお届けするこの通信ですが、私の原稿が遅れたため、年初に届くことを見据えて作成されていた二枚目の記事と時期がずれ込んでおりますことをお詫びいたします)

“徒然に思う…”

サポート・新規事業PJ 山本知男
年の瀬も近づいて仕事に大掃除、正月準備やらで忙しい毎日が続きます。この時期は2年参りや初詣等々、神様に願い事したりで普段より強く神様を思うところですが、心と音楽の神様ってどんな神？って思い調べてみました。するとまずは七福神の中で紅一点、琵琶を弾く弁財天さんが音楽の神様と出ました。また日本書紀の中ではアメノウズメノミコト（天細女命）と言う方が芸能の神様との事。有名な話としては天岩戸に隠れたアマテラスオオミカミ（天照大神）を何とか出て来て貰おうと色っぽい踊りを踊ったと言う方です。それとタマヨリヒメノミコト（玉依姫命）と言う方も出て来ました。この方は初代天皇・神武天皇を生んだ方で美人だったそうで、美や芸術、音楽の神ともいわれているとの事。詳しい事を知りたい方は日本書紀等調べると楽しい話が盛り沢山出て来ます。正月休みに見てみるのも良いかなと思います。

さて、日本書紀などを見ていると、遠いのにしえの世界、当然現在とは比較にならないけれど、今の世はいろんな事で進歩・進化してかなり便利な世の中になってるなあと感じます。でも不便ではあっても、その時代で工夫し生活し楽しみもあったようで、今は便利になった分、その分余計に欲求も多く贅沢になって要るかも知れません。

話変わって、先日市内で音楽祭があり私の所属しているバンドも出演しました。観客は年配の方が多いので曲目選定の時、その方達対象に昔の演歌メロデーなどを選んだのですが、テンポも遅めの懐かしのメロディーに皆さん手拍子を取ったり非常に反応も良く、「最近の曲は聞いてもさっぱり分からん、今日は良かったよ」とかなり喜ばれました。時代の中での楽しみは、その時代の人に良く解る感じなのでしょう。私も世の中の動きに取り残されないように進歩して行かなきゃと思っても、進歩したのは額の広さだけ。それでも喜んでくれる人がいるなら、仕事に趣味に頑張って打ち込んで行きたいと、今年の反省をしてみました。皆様も良い年をお迎え下さい。来年もよろしくお願い致します。

お取引先の皆様、旧年中は大変お世話になりました。補助金の後押しがあってこそだとは思いますが、お陰様で非常に忙しい一年を過ごさせていただきました。タンクの納期その他でご迷惑をお掛けした皆様方には、この場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、平成28年もまた社員一丸となって良い製品を皆様にお届けして参りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。

さて、平成27年は当社にとって非常に大きな出来事がありました。会社始まって以来、初めて清酒の製造プラント一式を海外に輸出しました。しかも向け先は中米メキシコ。皆様方がこの文章をお読みになっているまさにこの瞬間、私はメキシコのある街で、納めた清酒製造設備の据え付けやセットアップ等を行っているはずで。

思い返すとことの発端は平成26年3月末の一本の電話からでした。中部地区のある清酒メーカーの社長さんから電話があり、「清酒のプラント設計の人を電話に出して欲しい」とのことで私が話を聞きました。

聞くとメキシコの取引先が自国で清酒をつくりたいと言っている、トータルプランニングが必要になると思ったので当社に電話した、(当時)取引無いのに面倒な相談して申し訳ない、とのことでしたが、その方にアドバイスをいただきながら、どうにかこうにか事は進んで行きました。

間に商社等が入らないユーザーとの直接取引ということもあり、英語による契約書の作成(見積り含めてA4で16ページ)、決済方法の確認、該非判定書(輸出する機器類が武器等の製造に転用されないことを証明する書類)の作成、原産地証明の取得、船の手配と通関の手続き等々を、ほぼ独りでやる羽目になりました。何せ会社始まって以来のことで、社内に先達が居ない訳ですから…。

多くの方のお力添えをいただき、8月末にコンテナが横浜の港を無事出航したとの知らせを聞いた時は、何とも言えない充足感に包まれたのを思い出します。

コンテナがメキシコの港に着いてからがまたひと騒動だったわけですが…。海外でも広く清酒が造られる日が直ぐそこまで来ているのかも知れません。

ニューワールドワインが広く世界のマーケットを開拓していったように、海外の清酒製造業者もまた、世界の清酒マーケットを広げていってくれることを期待したいと思います。

★ 自由が丘で探し物 ★ *エッセイ* 生産部 島貫 修一

改札口を出て目に飛び込んで来たのは、女神広場の歩道を埋めるカップルやファミリーの群れ。やっぱり「スイーツの街 住みたい街 自由が丘」なんだなあ。好物のザッハトルテとシュークリームを食べたい。でも今回の目的はスイーツではなく思い出の発掘。

川崎市の工場に勤めていた頃、ここは二人(もちろん彼女と)で食事兼デートに来たところ。工場や寮の周辺には食堂と飲み屋とスナックぐらいいかないが、自由が丘には洒落たレストランや喫茶店・飲食店が多くあり、非日常の食事ができる場所だった。

さっそくおぼろげな記憶を頼りにカトリア通りから歩き始めたが、新しい店ばかり。続いて右に曲がり石畳の路地に入ったとたん「そうだこの辺りだ。二人で食事を楽しんでいたレストランがあったんだ。」初デートの時は緊張のあまり、注文した料理の半分しか食べられなかった。彼女はしっかり食べていたな。そしてその先にはロシアンティーを飲んでおしゃべりした喫茶店も。しかし今はどちらも無い。

あのBARはどこだったかな。落ち着いた雰囲気と都会を感じていたし、カウンターで飲んでると大人になった気分だった。飲んでいたのは安いジンだったけど。先輩に恋愛の相談に乗ってもらったりもしたあのBAR。でも思い出せない。かわいい小物を売っていた店、テイクアウトの寿司屋、和菓子店、記憶を探りながら狭い道を右に左に歩き回って見たものの、みんなどこにあったのか思い出せない。道の狭さだけは変わっていないが。

うん、いいんだ。もう掘り返すのは止めよう。素敵な思い出は自由が丘に埋めておこう。